

はじめに

自閉症スペクトラムに関する本は、本当にたくさん出版されるようになりました。イラスト付きで、「こうすればよい」とわかりやすいハウツーが書かれた本もあれば、専門家が手に取るような難解な用語が入った本までさまざまなものが出ています。

このような状況のなかで、改めて本を出すということに、とまどいがないわけでもありません。「いまさら……」と我ながらツツコミたくなります。それでも、2つの思いをもって、本書を上梓しました。

1つは、自閉症理解・教育の原点を伝えたかったからです。自閉症スペクトラムに関する研究は、日進月歩の状況です。5年前の「常識」が「非常識」となる例はいくらでもあります。「100人いれば少なくとも1人は自閉症スペクトラムをもっている」という状況を、20年前の我が国の多くの研究者は想定していなかったでしょう。研究がどんどん進んでいるため、真面目な私たちは、「新しいアセスメントを学ばねば」「自閉症スペクトラムの診断基準を学ぶ

ぞ！」としゃかりきになります。もちろん、最新の情報は言うまでもなく大事です。

しかし、一方で、これまで私たちが大事にしてきた子ども理解の視点や、教育で大事にした原点を見失わないことも重要です。新しい知識や技術は、これまで私たちが大事にしてきた教育哲学や理念があつてこそ、適切に用いることができるからです。

そこで、本書では、自閉症スペクトラムの新しい知識などを紹介しつつも、改めて自閉症理解・教育の原点についてわかりやすく書くことをめざしました。

もう1つは、我が国で行われている素晴らしい実践を読者の方に知ってほしかったからです。現在、「○○プログラム」「□□モデル」「××アセスメント」など外国（特に欧米圏）からの教育プログラムが輸入され、それが「よきもの」として紹介されています。確かにこれら輸入プログラムから学ぶことは多くあります。しかし、同時に、我が国では、目立つとはいえないものの、丁寧な実践が地道に行われてきたことも事実です。これらの実践の蓄積に向き合い・学ぶことぬきに、短絡的に輸入プログラムを取り入れても、うまくいくことはないでしょう。

私が出会ってきた我が国の素敵な実践を紹介することを通して、自閉症スペクトラムの子どもの理解と保育・教育を考えます。

この2つのことを語る際、私は「目からウロコ」にこだわりました。「目からウロコが落ちる」とは、「あることをきっかけに、今までわからなかったことが急に理解できるようになること」のたとえです。何かを理解するうえで大事なものは、新たな知識を得ると同時に、今までの自分の見方とは異なる見方をとることです。

できる限り斬新な実践を紹介することで、自分の自閉症スペクトラムに対する「常識」を改めて見直す機会にできればと思いました。たとえば、「ほめることが大事」「できることが増えたほうがいい」「感覚過敏な子どもには静かな環境を用意する」といった「確かにそうやな」とされてきた見方に対して、「ほんまにそうなん？」と異議を唱えつつ、新たな子ども理解を提起しました。なかには戸惑ってしまうような話もあるかもしれませんが、そのことで、私の本から答えを得るのではなく、考えを深めるきっかけになればうれしいです。

本書の構成は、大きくは3部に分かれています。

第1部は、自閉症スペクトラムの子ども理解について書きました。「あこがれる」「自己肯定感」「できるようにすること」など、自閉症スペクトラムの子どもを理解するうえで重要な基本的なことについて述べました。

第2部は、自閉症スペクトラムの子どもの教育について書きました。「ほめる」「教える」といった、子どもを教え、育てるにあたっての基本的なことがらや、「特別あつかい」などイン

クルーシブ教育を進めるうえで重要な問題について述べました。

第3部は、自閉症スペクトラムの子どもの発達理解について書きました。彼らの発達をどのようにとらえるのかについて、いくつかの実践をもとに書きました。また、これまでのまとめを兼ねて、最終章において、自閉症スペクトラムの子どもの発達と教育について論じました。3部に分けましたが、各章は独立していますので、どこから読んでいただいてもかまいません。

私の本書の試みが成功したかは、読者のみなさまの評価にゆだねるほかありません。ですが、読者の方が、自分がかかわっている子どもの姿を少しでも思い浮かべられるような本になっただけならば、望外の喜びです。

なお、本書では、一部を除いて、個人の特定を避けるため、子どもや利用者の名前を仮名にしています。加えて、一部のエピソードでは細部を変更しています。実践者については許可を得たうえで、実名としています。自閉症の名称については、「自閉症」「自閉症スペクトラム障害」「自閉スペクトラム症」などさまざまなものがありますが、本書では、現時点でよく使用されている「自閉症スペクトラム」に統一しました。